

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「木は光の花である」

建築家のライトは樹木をそう表現している。

「木は光をエネルギー源とし、それが外に向かって純粹に形となったものなんだ」

植物は、葉っぱの中の葉緑体が空気中の炭酸ガスと水分を吸いこみ、日光のエネルギーをうけることで育っていく。四億年前に海から陸へと上がった植物は、光を受ける葉をできるだけ高く、しっかりともち上げていった。その完成した形が木なのである。見事に咲いた光の花たちは、植物の仲間の中でもっとも大きく、量多く、宇宙からの景色を変えるほどに地球上をおおっている。そして、日本は、その種類が特に多いめずらしい国なのだ。

日本書紀という神話の中で、国づくりをするスサノオノミコトが木の使い方を教えてくれるところがある。

A ヒゲをぬいてまくとスギの森ができた。胸毛をぬいてまくとヒノキの森ができた。さらに尻の毛はマキに、まゆ毛はクスの森となった。そして「スギとクスでは舟をつくれ、ヒノキでは建物を、マキでは棺をつくれ」と教えた、というのである。日本人にとって、木は神様からの大切なおくりものにたとえるほど、愛着のあるものだった。

B いくらまわりに木がたくさんあるからといって、大切な木をむやみやたらと切りたおしたりはしない。柱は柱用の木、床板は床板用の木と、用途にあわせた木の種類をちゃんと知っていて、もつとも有効な木の使い方をしてきたんだ。

こんな日本の中で、木を使いこなして建物をつくる大工さんは、古代では最高の技術役人であつた。

ぼくたちが木を切るときにつかうのこぎりや、きれいにけずって仕上げる台かんなどは、いつごろ発明されたものか知っているだろうか？ これは室町時代。たくさん有名な日本建築の年代からすると、ずいぶん新しいことに気がつくはずだ。これらのすぐれたつかいやすい道具が発明される前は、大工さんはとても原始的な道具で建物を作っていた。

木を切りたおすおの、打ち割るためののみやくさび、ちょうな（内へまがつている小形のお

の)ではつって、仕上げはやりがんなでけずる。基本的にはこれだけできれいな板材にいたるまでつくりあげてきたことになる。そして、このすばらしい仕事の秘密は大工さんの木に対する知恵にあった。その木の種類、木の具合、そして木目の走り方を十分に知っていて、くさびやのみで打ち割るだけでうすく、きれいな原板に割ることができた。その腕前とするどい感覚は、森の暮らしのころから長い間かかってつちかわれたものだ。くさびには木製のものもあった。木で木を割ることができたわけである。

割った木材は、自然に生えている木やそれを切っただけの丸太に近い性質をもっている。

C 木は、自分の木目にそってしか割れないのだから、そうやって割った木はめったにそったり曲がったりしない。^③ 木の自然なありかたにしたがった技法だ。古代の木造建築が千年の歳月(法隆寺は一三〇〇年)をへて、大きな変形もなく立ちつづけてきた秘密は、そのような木を生かす技術にあるといわれている。

「何百年もかかって大きく育った木を切りたおしてつかうのだから、その木でつくった建物も何百年もつものでなくてはならない」

④ むかしの日本の大工さんはそう考えていたのだろう。

何層にもなる高く、しっかりした木造建築の建て方やかわら屋根(それまで日本にかわらはなかったんだ)。これらの発明や発見は、「寺院」とよばれる仏教建築とともに中国から渡ってきたものだ。中国の文化が日本にあたえた影響がどんなに大きいものだったかは、いま残っている有名な木造建築ほとんどぜんぶに、当時輸入されたかわらなどの技術が生かされていることからもうかがえる。

はじめのうちこそ、ただまねばかりしていたけれど、それらの技術も長い年月の間には、日本人の好みにあった木の下や美しさを生かす姿へとじよじよにかたちを変えていった。

四百年つづいた鎌倉・室町・安土桃山の時代、そして三百年つづいた安定した江戸の世の中は、大工さんにとっても、とても居心地のいい温室のようなものだった。外国とのかかわりを気にしないいいから、じつくり腰をすえてものづくりに専念できたんだ。人口もふえたから家づくりの仕事もさかんになり、大工さんの腕もどんどんよくなった。

住む人と同じ町内にいるため、注文だつて文句だつてもいいやすいし、すぐ

に来てもらえた。

「うちはおばあちゃんがいるから、しっかりしたあつたかい部屋をつくってほしいんだ」「つかつてるうちに、戸のすべりが悪くなったからなおしてくれ」

⑤ 買い物のついでにでも、気軽にいうことができた。よりよくするためのくふうもしつかり、そしてきびしく見てくれてとても喜んでもらえるから、大工さんもつくりがいがあった。

ものづくりの道具や、うけもつ作業分担の仕組みも工夫が重ねられ、木の美しさをひき出す腕はより⑥ がかけられた。こうやって、日本の大工さんの技術は世界でも⑦

を見ないほど発達し、すばらしく高いものになった。

同じ生きものである木という素材は、人の肌あいに近く、つかう人へ微妙な感触まで伝えてくれる。しろうとが注文や文句をいいやすかったことも、大きな助けとなったのだろう。

「建築の発明発見物語」秋岡芳夫 監修

問一 空らん A B C にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～オ

の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ まず エ つまり オ たとえば

問二 — 部①「むやみやたらと切りたおしたりはしない」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使つて答えなさい。

問三 — 部②「用途」について、次の問いに答えなさい。

(1) 読み方をひらがなで答えなさい。

(2) 意味を答えなさい。

問四 — 部③「木の自然なありかた」とありますが、それはどういう「ありかた」ですか。本文中より十五字で抜き出し、「〜というありかた」に続く形で答えなさい。

問五 — 部④「むかしの日本の大工さん」とありますが、筆者はどのように言い換えていますか。本文中より七字で抜き出して答えなさい。

問六 — 部⑤「買い物ついでにでも、気軽にいうことができた」とありますが、それはなぜですか。その理由が書かれている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

問七 — 部⑥・⑦で、あとに書かれている意味の言葉になるように、指示に従って空らんにあてはまる言葉をいれなさい。

- ⑥ 「()」がかけられた(る)。「 ↓技術の上達を得られる (ひらがな三字)
⑦ 「()」を見ない。「 ↓他に例がない (漢字一字)

問八 「樹木」のことを、筆者はどのように言い換えていますか。本文中より十一字で抜き出して答えなさい。

問九 本文中で「直喩表現(＝比喩の一種で、たとえるものと、たとえられるものとを直接比較して示すもの)」が用いられている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

問十 次にあげた文の中で、本文の内容と違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 古くから日本人は、勝手に木を切ったりせずに大事にしてきた。
イ 昔から日本にある木造建築のほとんどは、外国のまねをして作られた。
ウ 大工さんの技術が進歩したのは、人口が増えそれによって仕事が増えたのも理由の一つである。
エ のこぎりやかんながなかった時代は、木製の道具で木を割ることもあった。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 最初は旗だと思った。国旗のような長方形の旗ではなく、三角形のペナントが何枚か並んで、団地の一室のベランダに掲げられている。

少年は自転車に乗っていた。町のタンケンの途中だった。三月の終わりに引越してきて、まだ一カ月足らず——通学路からはずれたこの団地に来たのは、初めてだった。

自転車を停める。見上げると、なあんだ、と苦笑いが浮かんだ。旗ではなかった。竿をフェンスに掛けた、小さなこいのぼりだった。

部屋は三階だった。ベランダに干してある洗濯物の中に子ども服はなかったが、こいのぼりを揚げるのは男の子のいる家なんだということは、少年も知っている。

② 三年生か四年生の子だったらいいな。男の子がたまたまベランダに出てくる、たまたま少年に気づく、少年が「よお」と手を挙げて笑うと、男の子も笑い返す、そして二人はなんとなく仲良くなって……そんな情景を思い浮かべながら、少年は自転車を停めたまま、こいのぼりを見つめた。

風が強い。こいのぼりはしっぽまで伸びて、ぱたぱたと音を立てて泳いでいる。小さなこいのぼりだ。竿も細くて短く、③ 一尾ぐらいなら片手に持って振り回すこともできそうだった。

風は少年にも吹きつける。埃っぽい風だ。団地の④ シュウイに広がる畑の土が巻き上げられているのだろう、ときどき頬に小さな土のかけらが当たる。頬がぴりりとするたびに、目を細め、自転車のハンドルを強く⑤ ニギリ直して、肩をすばめた。

町のタンケンをするときには、いつも一人で自転車をとばす。⑥ お母さんは知らない。少年は学校から帰るとすぐに「遊びに行つてきまーす」とはずんだ声で言つて家を出て、町をあてもなく自転車で巡つて、夕方五時のチャイムが鳴るまで時間をつぶしてから、「ただいまーっ」とはずんだ声で家に帰る。

初めての転校だった。新しい友だちとどうなじんでいけばいいのかよくわからなかったから、しくじった。最初はよかったのだ。クラスみんなは休み時間のたびに少年のまわりに集まつて、前の学校のことをあれこれ訊いてきた。すっかり人気者だ——と、勘違いしてしまった。

気がゆるんだ。質問に答えるだけではなく、なにか面白いことを言って、みんなを笑わせてやろうと思った。前の学校や町のことを少し大げさに話した。この学校やこの町の感想も、ギャグのネタになるようにしゃべった。すると、それが「いばってる」「ここを田舎だと思ってバカにしてる」ということになってしまった。笑ってくれるはずのみんなは怒りだした。誰も少年の席には集まらなくなり、放課後のソフトボールにも^Dサソ^Dつてくれなくなった。

「そんなに前の学校がいいんだったら、帰れよ、そっちに」——今日、^a聞こえ^aよがしに言われた。言ったのは、少年の話に真つ先に腹を立てたヨッちゃんだった。

男子のリーダー格のヨッちゃんは、好きなテレビやゲームやマンガがどれも少年と同じで、おしゃべりをするときのテンポやノリもぴったりで、クラスでいちばん仲良くなれるはずだった。親友になれたらいいな、きつとなれるだろうな、と楽しみにしていた一週間前までが、^⑤今は、^⑤ずっと昔のことのように思える。

知らないうちにうつむいてしまっていた。顔を上げ、こいのぼりをもう一度見つめて、まあいいや、とため息をついて自転車のペダルを踏み込みかけたとき、こいのぼりが一尾、空に泳ぎ出た。ぽかんと開けた口と竿を結んでいた紐^{ひも}が、ほどけたか、ちぎれたか、黒い真鯉^{まごい}が竿からはずれてしまい、風に乗って飛んでいったのだ。

少年はあわてて追いかけた。畑の真ん中にふわりと落ちたのを確かめると、自転車を乗り捨てて、ごめんなさいごめんなさいしようがないんです、と^⑥謝りながら畑に入った。

団地の建物は古く、オートロックどころかエレベーターもなかった。陽のほとんど射さない階段はひんやりとして、カビと埃の入り交じったにおいがした。

竿のあるベランダの位置を外から確認し、廊下に並ぶドアの数と照らし合わせて、奥から二軒目のドアのチャイムを鳴らした。

中から顔を出したのは、おばさんだった。少年のお母さんと変わらない年格好で、お母さんよりきれいで、そのかわり、お母さんより寂^{さび}しそうに見えた。

こいのぼりが飛んでいったことを説明して、拾ってきたこいのぼりを差し出すと、おばさんはとても——少年が予想していたよりもずっと喜んで、感謝してくれた。

「ちょっと待っててね、お菓子あるから、持って帰って」

玄関の中に招き入れられた。おばさんは玄関とひとつづきになった台所の戸棚を開けながら、「何年生？」と訊いた。

「五年、です」

「……東小学校の子？」

^bけげん^bそうに訊かれた。

少年がうなずいて、「転校してきたばかりだけど」と付け加えると、おばさんは、ああそうなの、と笑った。固まっていたものがふつとゆるんだような笑顔だった。

「ねえ、ボク、上がっていきなさい。おみやげのお菓子はあとであげるから、おやつ食べていけば？」

知らないひとの家に上がるのはよくない。お母さんにいつも言われている。

でも、五時のチャイムまではまだ時間があるし、^Eゴトワ^Eるとおばさんはまた寂しそうな顔で固まってしまうそうだし、なにより、少年は気づいていた。台所の奥の居間に男の子の写真が飾ってある。大きく引き伸ばした写真をきちんとした額に入れて、鴨居^{かもい}に立てかけて——田舎のおじいちゃんの家では、死んだひいおじいちゃんとひいおばあちゃんの写真をそうしている。そして、部屋に染^しみついているにおいは、おじいちゃんの家でいつも嗅^かいでいるのと同じ……^⑦たぶん……きつと……。

うつむいて靴^{くつ}を脱ぐ少年に、おばさんは言った。

「せっかくだから、お仏壇^{ぶつだん}にお線香^{せんこう}をあげてくれる？」

「友だちの友だち」重松清 著

問一 ……部A～Eのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 ……部a・bの言葉の意味として正しいものを、あとのア～エの中からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

a 「聞こえよがしに」

ア 聞こえないふりをして イ わざときこえるように

ウ 聞こえているかたしかめながら エ 聞こえないぐらい小さな声で

b 「げんそうに」

ア 不思議そうに イ 冗談だと思って ウ 機嫌を悪くして エ 心配そうに

問三 — 部①「最初は旗だと思った」とありますが、本当は何だったのですか。本文中の言葉を抜き出して答えなさい。

問四 — 部②「三年生か四年生の子だったらいいな」とありますが、それはなぜですか。次のア〜エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言うことを聞いてくれる相手が欲しかったから。

イ 自分のことを知らない男の子と仲良くなりたかったから。

ウ 弟のように可愛がることのできる友だちがほしかったから。

エ 知らない子と仲良くするのがとても苦手だったから。

問五 — 部③「二尾」は魚を数えるときの単位です。次の1〜4の数え方として正しいものを、あとのア〜エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 キウイ 2 鏡 3 いす 4 くつ

ア 個 イ 足 ウ 脚 エ 面

問六 — 部④「お母さんは知らない」とありますが、何を知らないのですか。本文中の言葉を使って、二十字以内で答えなさい。

問七 — 部⑤「今は、ずっと昔のことのように思える」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って、三十字以上四十字以内で答えなさい。

問八 — 部⑥「謝りながら畑に入った」とありますが、それはなぜですか。次のア〜エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 知らないところに入るのはよくない、とお母さんに言われていたから。

イ 畑に入るところを友だちに見られて笑われるのがいやだったから。

ウ 畑に入るところを他の子どもに見られてあとでうわさされなくなかったから。
エ 畑に入るのはこいのぼりを取りに行くためなのだと伝えたかったから。

問九 — 部⑦「たぶん……きつと……」とありますが、「……」のあとに省略されている言葉は何ですか。「〜ということ」に続くように十五字以内で答えなさい。

三

次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次の文の中から、誤字を探し、正しく直した漢字を答えなさい。

- ① 体育祭が雨で伸びた。
- ② 以外な結果に終わる。
- ③ お客さんを観迎する。
- ④ 自動車の住来が激しい。
- ⑤ 友人に送り物をする。

問二 次の□にあてはまる数字を合計して、その数を漢数字で答えなさい。

- ① □石 □鳥
- ② □転び □起き
- ③ □を聞いて □を知る。
- ④ □聞は □見に如かず
- ⑤ □寒 □温